

主 題：わたしは、よみがえりです。いのちです。

聖書箇所：ヨハネの福音書 11章25節

テーマ：主イエス・キリストのよみがえりの真実性・内容またその意味を考えましょう。

きょうは、主イエス・キリストのよみがえりの真実性、またその内容、そしてその意味を考えてみたいと思っています。

1. 神の啓示

出エジプト3章には、エジプトの地から逃れてミデヤンの地で羊飼いをしていたモーセに対して、主からの召しがあったことが記されています。3：10で「今、行け。わたしはあなたをパロのもとに遣わそう。わたしの民イスラエル人をエジプトから連れ出せ。」、主からこう告げられたモーセは、13節で「その名は何ですか」と尋ねています。そして主の答えは14節「わたしは、『わたしはある』という者である。」「I AM WHO I AM.」でした。このことばは神がご自身を啓示し、ご自身の性質を明らかにしていました。それは自存なる神であること、空間的に無限なる神であること、また時間的に無限なる神であること、そして唯一なる神であることでした。神は15節で、「これが永遠にわたしの名、これが代々にわたってわたしの呼び名である。」と、モーセに言われたのです。

2. イエス・キリストの啓示

イエス様もご自分がどのような者であるかを人々に明らかにされました。ヨハネの福音書には、イエス様自身が「私は～です」、「I AM ～」と言われたことばが七つ記されています。6：35「わたしがいのちのパンです。」、8：12「わたしは、世の光です。」、10：9「わたしは門です。」同じく10：11「わたしは、良い牧者です。」。そして14：6「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。」、15：5「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。」。きょう私たちが見ようとしてる11：25で「わたしは、よみがえりです。いのちです。」とイエス様は言われました。ヨハネ11章でイエス様がラザロという人物をよみがえらせたという記事を通して、イエス・キリストの復活、このよみがえりの真実性、またその内容、そしてその意味を考えていきたいと思っています。

ヨハネの福音書11章をお開きください。11：1－27、また43、44節をお読みいたします。

ヨハネ11：1－27、43－44

「：1 さて、ある人が病氣にかかっていた。ラザロといって、マリヤとその姉妹マルタとの村の出で、ベタニヤの人であった。：2 このマリヤは、主に香油を塗り、髪の毛でその足をめぐったマリヤであって、彼女の兄弟ラザロが病んでいたのである。：3 そこで姉妹たちは、イエスのところに使いを送って、言った。「主よ。ご覧ください。あなたが愛しておられる者が病氣です。：4 イエスはこれを聞いて、言われた。「この病氣は死で終わるだけのものではなく、神の栄光のためのものです。神の子がそれによって栄光を受けるためです。」：5 イエスはマルタとその姉妹とラザロとを愛しておられた。：6 そのようなわけで、イエスは、ラザロが病んでいることを聞かれたときも、そのおられた所になお二日とどまられた。：7 その後、イエスは、「もう一度ユダヤに行こう」と弟子たちに言われた。：8 弟子たちはイエスに言った。「先生。たった今ユダヤ人たちが、あなたを石打ちにしようとしていたのに、またそこにおいでになるのですか。」：9 イエスは答えられた。「昼間は十二時間あるでしょう。だれでも、昼間歩けば、つまづくことはありません。この世の光を見ているからです。：10 しかし、夜歩けばつまづきます。光がその人のうちにないからです。」：11 イエスは、このように話され、それから、弟子たちに言われた。「わたしたちの友ラザロは眠っています。しかし、わたしは彼を眠りからさましに行くのです。」：12 そこで弟子たちはイエスに言った。「主よ。眠っているのなら、彼は助かるでしょう。」：13 しかし、イエスは、ラザロの死のことを言われたのである。だが、

彼らは眠った状態のことを言われたものと思った。:14 そこで、イエスはそのとき、はっきりと彼らに言われた。「ラザロは死んだのです。:15 わたしは、あなたがたのため、すなわちあなたがたが信じるためには、わたしがその場に居合わせなかったことを喜んでいます。さあ、彼のところへ行きましょう。」:16 そこで、デドモと呼ばれるトマスが、弟子の仲間に言った。「私たちも行って、主といっしょに死のうではないか。」:17 それで、イエスがおいでになってみると、ラザロは墓の中に入れられて四日もたっていた。:18 ベタニヤはエルサレムに近く、三キロメートルほど離れた所にあつた。:19 大ぜいのユダヤ人がマルタとマリヤのところに来ていた。その兄弟のことについて慰めるためであつた。:20 マルタは、イエスが来られたと聞いて迎えに行った。マリヤは家ですわっていた。:21 マルタはイエスに向かって言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。:22 今でも私は知っております。あなたが神にお求めになることは何でも、神はあなたにお与えになります。」:23 イエスは彼女に言われた。「あなたの兄弟はよみがえります。」:24 マルタはイエスに言った。「私は、終わりの日のよみがえりの時に、彼がよみがえることを知っております。」:25 イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。:26 また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」:27 彼女はイエスに言った。「はい。主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストである、と信じております。」……:43 そして、イエスはそう言われると、大声で叫ばれた。「ラザロよ。出て来なさい。」:44 すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたままで出て来た。彼の顔は布切れで包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」

このヨハネ 11 章のラザロのよみがえりの記事は、ほかの三つの福音書には記されていません。ほかの福音書には、イエス様が死人をよみがえらせた別の二つの記事が書かれています。

a. 会堂管理者ヤイロの娘の復活

b. ナインの町でのやもめの息子の復活

A. ラザロの死と復活の二つの意味

そしてこのどちらの場合も、彼らの死はイエス様が行かれる直前に起こった出来事でした。しかし、このヨハネ 11 章に記されているラザロの場合、イエス様は彼が死んで 4 日たってから行かれたのです。イエス・キリストの死と復活の前に、なぜこの 11 章のラザロの死と復活の記事が記されているのでしょうか？それには二つの大きな意味があります。

① イエス様の復活のしるし

一つは、イエス・キリストの死と復活の真理をあかしするしるしとなりました。47 節で祭司長とパリサイ人たちは、「あの人が多くの上りを行っている」と言っています。ラザロのよみがえりは、イエス様自身もよみがえること、イエス様が 25 節で言われた「わたしは、よみがえりです」ということばのしるしとなったのです。

② イエス様を十字架につける原因

もう一つは、当時のユダヤ教の指導者たちが決定的な行動をとる原因となりました。11:53 に、「そこで彼らは、その日から、イエスを殺すための計画を立てた。」と記されています。その行動とは、イエス様を十字架につけることでした。

このラザロの死と復活の記事には、このように二つの大切な意味があつたのです。

3. イエス・キリストの復活

「わたしは、よみがえりです。いのちです。」、こう言われたイエス・キリストの復活を見ていきたいと思ひます。

実存主義哲学者である。ハイデッガーはこう述べました。「人間は死へと向かう存在である」。人間は究極的には死んで終わる存在であると述べているのです。私たち人間は、このからだ死んで、本当にすべてが終わるのでしょうか？私たちはイエス様が述べられた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。」、こ

のみことばをよく考えてみる必要があるのではないのでしょうか？私たちクリスチャンの信仰の最も重要な教理の一つは、イエス・キリストの復活、イエス・キリストのよみがえりです。使徒の働きに記されているメッセージの多くが、このイエス・キリストの復活を中心的教理、また決定的な事実として伝えています。使徒の働き 1 : 3 に「イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現れて、神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。」とあります。

a. ペテロのメッセージ

またペテロは、使徒の働き 2 章でこのようにメッセージしています。2 : 23 - 24 「:23 あなたがたは、神の定めた計画と神の予知とによって引き渡されたこの方を、不法な者の手によって十字架につけて殺しました。:24 しかし神は、この方を死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、ありえないからです。」。そしてペテロは同じ 2 : 32 で、「神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。」と述べています。

b. パウロのメッセージ

パウロも使徒 13 : 27 - 31 で「:27 エルサレムに住む人々とその指導者たちは、このイエスを認めず、また安息日ごとに読まれる預言者のことばを理解せず、イエスを罪に定めて、その預言を成就させてしまいました。:28 そして、死罪に当たる何の理由も見いだせなかったのに、イエスを殺すことをピラトに強要したのです。:29 こうして、イエスについて書いてあることを全部成し終えて後、イエスを十字架から取り降ろして墓の中に納めました。:30 しかし、神はこの方を死者の中からよみがえらせたのです。:31 イエスは幾日にもわたり、ご自分といっしょにガリラヤからエルサレムに上った人たちに、現れました。きょう、その人たちがこの民に対してイエスの証人となっています。」と、ペテロと同じようにイエス・キリストの復活をメッセージしています。

A. 復活の真実性

今皆さんはだれを礼拝していますかと尋ねられたら、きっとこう答えられるでしょう。はい、復活されて、今も生きておられる主イエス・キリストに礼拝をささげていますと。私たちのメッセージも、ペテロやパウロと同じものです。それは主イエス・キリストの復活です。主イエス・キリストはよみがえられたということです。私たちはまずこの主イエス・キリストの復活の真実性に目を留めて、三つのことを見てみたいと思います。

① イエス様自身による言明

まず一つは、イエス様自身による予告のことばです。イエス様は自分が十字架にかかれる前に、自分は死んで三日目によみがえることを弟子たちにはっきりと予告していました。マタイ 16 : 21 に「その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。」。2 回目の予告がマタイ 17 : 22 - 23 に「:22 彼らがガリラヤに集まっていたとき、イエスは彼らに言われた。「人の子は、いまに人々の手に渡されます。:23 そして彼らに殺されるが、三日目によみがえります。」と。イエス様の予告の 3 回目がマタイ 20 : 18 - 19 に書かれています。この箇所は後でぜひ目を通してください。イエス様は自分が死んで葬られ、三日目によみがえるということを 3 回も弟子たちに予告していました。そしてこのイエス様の予告どおりに、イエス様は十字架にかけられ、そして三日目によみがえることが成就されたのです。ことばどおり、イエス様は復活されました。

② 空となっていた墓

イエス様が葬られたその墓は空となっていました。マタイ 28 : 6 に「ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。」と御使いは言われたと記されています。このことに関しては、さまざまに言われています。まず一つ、弟子たちは親しい者たちがイエス様の死体を墓から運び去ったのだと。しかし、よく考えてみてください。イエス様が葬られた墓には、厳重に番兵が 24 時間つけられていました。また、墓の入り口は封印されたとも記されています。一説には、その墓の入り口は 2 トン

もあるような岩でふさがれていたとも言われています。このような厳重な警備の中で、弟子たちがイエス様の死体を運び去ることは不可能です。

もう一つは、イエス様の敵がイエス様の死体を盗んで、違うところに置いたのだらうと言う者もいました。しかし、これこそおかしなことです。もし敵がイエス様の死体をどこかに運んで置いたのなら、彼らはイエス様の死体はここにありますが、反論の声を上げることができたはずですが、しかし敵からの反論は一つもありませんでした。

この空の墓の答えは一つです。イエス・キリストは事実、死からよみがえったということです。パウロはこのことをIコリント15章でこう述べています。15：3-8「:3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、:4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、:5 また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。:6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。:7 その後、キリストはヤコブに現れ、それから使徒たち全部に現れました。:8 そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現れてくださいました。」、これがパウロの証言でした。これが、パウロが受けた福音でした。空になっていた墓の証明はただ一つ、イエス・キリストはよみがえられた、このことだけです。

③ 弟子たちの変化

復活の真実性の三つ目、弟子たちの変化です。弟子たちは復活された主にお会いした後、自分の死をも恐れずにイエス・キリストは神であり、救い主であることを語り続けました。

a. ペテロ

ペテロはどうだったのでしょうか？イエス様が十字架にかけられる前、ペテロは自分に危険が及ぶのを恐れて、主を否んだことがマタイ26：69-75に書かれています。ペテロは「私はそんな人は知らない」と叫んだとみことばに記されています。彼は皇帝ネロの迫害によって、ローマで殉教したと言われて

b. 主の兄弟ヤコブ

主の兄弟ヤコブはどうだったのでしょうか？彼は最初イエス様を信じていませんでした。彼は復活された主にお会いして、イエス様を信じました。彼が描いたヤコブ書1：1に、自分のことをこう紹介しています。「神と主イエス・キリストのしもべヤコブ」と。この「しもべ」と記されていることばは、ギリシャ語の“デューロス”、「奴隷」ということばが使われています。だからヤコブは、「私は神と主イエス・キリストの奴隷、ヤコブです」と自己紹介しているのです。このヤコブも後に、石打ちの刑で殉教したと言われて

c. パウロ

パウロはどうでしょうか？最初彼はキリスト者を迫害する者でした。しかし、復活された主にお会いして、彼はキリストを宣べ伝える者に変えられました。このパウロも皇帝ネロの迫害によって、殉教したと言われて

このように、イエス・キリストの復活の真実性を証明する証拠が明らかになっています。イエス様自身の予告のことばがそのとおりになりました。空となっていた墓の存在、それを正しく証明するのはイエス様がよみがえられたことだけです。そして、復活された主に会われた弟子たちの変化、彼らはいのちがけでこの主を宣べ伝えたのです。

B. 復活の内容

次に、このイエス様の復活が示す内容を見ていきたいと思えます。

① 主イエス・キリストは神の御子である

まず一つ、主イエス・キリストは神の御子であるということです。ペテロがピリポ・カイザリアで信仰告白をしたと同じように、この11：27に、マルタの信仰告白が記されています。「はい。主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストである、と信じております。」と。また、パウロはローマ1：4に「聖い御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。」と記しています。復活の示すことの二つ目は、主イエス・キリストは神の御子であるということです。

② 主イエス・キリストは「死」に勝利する権威がある

二つ目は、主イエス・キリストは死に勝利する権威がおりだということです。このヨハネの福音書の43-44節には、イエス様がことばによって、ラザロをよみがえらせたことが記されています。死に打ちかつ力をイエス様は持っていることを明らかにされました。これが内容の二つ目です。

③ 主イエス・キリストは「永遠のいのち」を与える権威がある

三つ目は、主イエス・キリストは「永遠のいのち」を与える権威があるということです。このヨハネの福音書11：25のイエス様のことばはこうです。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」と。いのちの源なる主は、信じる者に永遠のいのちを与える権威を持っておられるのです。ヨハネ17：2（2017年版）に、「あなたは子に、すべての人を支配する権威を下さいました。それは、あなたが下さったすべての人に、子が永遠のいのちを与えるためです。」と記されています。そしてこのいのちは霊的な全く新しいいのちのことです。

ラザロの復活をその場所において、その目を見た人たちの反応はどうだったでしょうか？イエス・キリストのわざはいつも人々を二つに分けるのです。この真理は今も同じです。イエス様を信じる者と、イエス様を信じない者に分けるのです。ヨハネ11：45には、イエス様を信じた者たちのことが記されています。しかし46節には、イエス様に悪意を抱いて、この出来事をパリサイ人や律法学者たちに報告した者の姿が記されています。今も人間はこのどちらかに属しているのです。

C. 復活の意味

では、イエス様のこの復活は、クリスチャンを含めて私たち人間にとってどのような意味を持っているのでしょうか？

① 私たちクリスチャンもよみがえる

イエス・キリストの復活は、私たちクリスチャンもよみがえることを明らかにしています。Iコリント15：20「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」、私たちクリスチャンがよみがえる、復活する証拠となる最初の出来事は、このイエス・キリストの復活でした。この20節は、パウロの力強い確信が述べられています。前節までの「もし死者の復活がなかったなら」ということばを受けて、パウロは20節で、しかしそうではない、イエス・キリストは本当に死からよみがえったのだと、パウロは宣言しているのです。

この「よみがえられました」という動詞は、受け身の完了形で書かれています。この受け身が表していることは、御子イエス・キリストをよみがえらせた御父の行為を明らかにしています。またこの完了形は、この状態の永続性を表しています。それは、主イエス・キリストはよみがえられた主としての性質を永遠に保持しているということです。そしてこの完了形はなんと、Iコリント15章で6回も用いられています。「初穂」ということばは「収穫の最初のもの」です。よみがえりの初穂となられたイエス様の復活は、私たちが復活すること、そして私たちの救いをも保証するものとなったのです。そのことをパウロは、ローマ4：25で「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。」と記しています。

② すべての人がよみがえる

主イエス・キリストの復活は、クリスチャンだけではなく、すべての人がよみがえることを明らかにしています。ヨハネ5：28－29には「:28 このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。:29 善を行った者は、よみがえっていのちを受け、悪を行った者は、よみがえってさばきを受けるのです。」と記されています。このみことばは、「善を行った者」＝キリストを信じた者も、「悪を行った者」＝キリストを信じなかった者もすべての人がよみがえり、その結果に大変大きな違いがあることを明らかにしています。

その違いとは、イエス・キリストを信じ救われた者は、「いのちを受け」と記されています。それは永遠のいのちが与えられて、主とともに永遠を過ごすというすばらしい祝福であり、すばらしい約束です。それとは反対に、イエス・キリストを信じなかった者、イエス・キリストの救いを拒否した者は「さばきを受ける」と記されています。それは永遠のさばきであり、苦しみの中で永遠を過ごすということです。

これは真理です。これが神様からのことばなのです。ウィリアム・バークレーという神学者は、このことを自分の著書にこう記していました。「復活は起こり、そして死後人間に起こることは、当然彼がこの世において行ったことと、密接な関係がある、というのがイエスの教えである。(中略)現在の人生の戦慄すべき重要性は、この人生が永遠を決定するということである。生涯を通じて、われわれは来たるべき命の準備をしているか、そうでないかのどちらかである。また、われわれは、神の臨在の準備をしているかそうでないかのどちらかである。現在の人生において、われわれは命に至る道を選ぶか、それとも死に至る道を選ぶことができるかである。われわれが、この人生でなすあらゆる行為は(中略)王冠を勝ち取るか失うかのどちらかであるというのは、驚くべき真理である。」と、バークレーは説明していました。

皆さん、イエス・キリストは死を打ち破ってよみがえられました。あなたはこの主イエス・キリストを信じ受け入れますか？そしてこのことは、あなたの人生にとって最も重要な選択です。皆さんが正しい選択をしてくださるようにと私は祈ります。

最後に、ヨハネ6：38－40を見て、きょうのメッセージを終わりたいと思います。

ヨハネ6：38－40

「:38 わたしが天から下って来たのは、自分のこころを行うためではなく、わたしを遣わした方のみこころを行うためです。:39 わたしを遣わした方のみこころは、わたしに与えてくださったすべての者を、わたしがひとりも失うことなく、ひとりひとりを終わりの日によみがえらせることです。:40 事実、わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。わたしはその人たちをひとりひとり終わりの日によみがえらせます。」

すばらしい祝福とすばらしい約束がここに書かれています。皆さん、正しい選択をしてください。